



教祖140年祭に 向かって、成人日標

4月大教会教会長会議

立教186年4月14日

大教会長 片山幹太

本島通信

発行所 〒763-0223 香川県丸亀市本島町泊268
天理教本島大教会
 電話 0877-27-3321 (代)
 本島通信編集室 R220416-0425-16
 奈良県天理市指柳町270-1
 本島詰所 〒632-0093
 電話 0743-63-1571 (呼)

<https://www.honjima.com>
 Email: webmaster@honjima.com

大教会 朝夕おつとめ時間
 【5月1日～5月31日】
 朝づとめ 午前6時15分
 タづとめ 午後7時00分

このたび教祖140年祭に向かって本島大教会の成人日標を作りました。A4サイズを二つ折りして諭達と一緒に持ち運べるものを各教会10部ずつお渡しします。ご活用いただけたらと思います。

さて、3月は「学生生徒修養会大学の部」が開催されました。コロナ禍の前は7日間でしたが、今年は5日間に短縮されました。内容は基本的に同じです。

学修に参加するきっかけを尋ねてみると、一番多いのは所属する教会の会長さんや奥さん、両親からの声かけです。そして友人から「一緒に行こう」と誘われるケース、一れつ会から参加するように勧められて受講を決める学生も多いです。

しかしながら最近では、誰から誘われるわけでもなく、自分自身で受講を決める受講生も増えてきているこ

教祖百四十年祭に向かって

成人日標

ひながたの道を通らねばひながた要らん。(略)

ひながたの道より道が無いで。(明治二十二年十一月七日)

● 年祭活動の意義と諭達第四号の精神を胸に一手二つに歩もう

○ 心の入れ替え

- 一、日々の御守護に感謝しましょう
- 一、成人に向けて互いに励まし合いましょう
- 一、ひたすらたすけ一条に歩みましょう
- 一、どのような中も心明るく通りましょう

○ 方針と目標

- 一、おつとめの心得を身に付けお稽古けいこに励む
 - 一、おちばへ帰らせて頂き、積極的にひのきしんを行う
 - 一、一人ひとりが年祭活動を行う
 - 一、一人ひとりが心定めを行い、まずおちばへ一人お連れする
- 各教会、更に一人ひとりが定めた目標達成に向けて、明るく勇んで進んで行きましょう

立教百八十六年四月十四日

天理教本島大教会

とを聞きました。

SNSを通して学修を知り、自分で情報を収集して「ああ楽しそうだな」「行ってみたいな」と自分の気持ちで受講を決意するのだからです。

それを聞いて、学生たちは「良いこと」や「ためになること」をみずから求めていると思いました。

道の先達たる私たちも、襟を正し、良い心遣い、良い態度を示して、通らせて頂きたいと思いました。

論達第四号に「心の闇路をさまよっている」と記されています。

これからどうしていけば良いのだろうか。良い人間になるためには、どのようにしていけたら良いのか。求めている人はたくさんいると思います。

私たちは教祖ひながたの道を歩めるよう努めさせて頂きましょう。

(文責・本島通信編集室)



本島大教会 神殿講話(要旨)

【立教186年4月14日】

「腹の立たぬよう、何も心に掛けぬよう、心澄み切る教」

大教会役員夫人 斉藤かよ

只今は4月の月次祭を、皆様方と共に陽気に勇んで一手一つに勤めさせて頂くことができました。親神様、教祖、祖霊様に心からお礼を申し上げたいと思います。

昨年10月26日、真柱様が「論達第四号」をお打ち出し下さいました。この論達は私たち道の子が、教祖の年祭の意味を知り、年祭を意義あるものとするために、三年千日と仕切って通らせて頂く指針をお示し下さったものです。

この論達を通して感じることは、教祖が言葉や筆先、行いでお示し下さったひながたを、今こそ辿らせて頂くという強い思いです。

ひながたはいつか誰かが通るものではなく、今自分が通らせて頂かなければならないのだと改めて思い

ました。

それでは、ひながたを辿らせて頂く上で一番大切なことは何でしょうか。たくさんのお答えがあると思いますが、私は「日々心を澄ませます」ことが最も大切なことの一つではないかと思えます。

では、心澄むとはどんな状態を言うのでしょうか。

私が検定講習を受講したときの講師であった上村福太郎先生が、おさしづの講義で次の言葉を教えて下さいました。

「腹の立たぬよう、何も心に掛けぬよう、心澄み切る教やで。」

(明治20・3・22刻限御話)

何と美しいお言葉でしょうか。私はこのお言葉を振り返るたびに心から感激いたします。

先生は、この「腹の立たぬよう」とは腹を立てないことではないと言われました。「腹を立てぬよう」ではなく「腹の立たぬよう」なのですからこの日本語の「を」と「の」の間には大きな意味の違いがあるというのです。腹を立てぬとは、腹が立つことがあっても、何とか腹を立てずに心を治めている状態です。

しかし、腹の立たぬようとは、腹の立つこと自体がないということなのだそうです。心澄み切るとは、まず腹が立つことがなくなる、そんな状態であるそうです。

そして次に「何も心に掛けぬよう」というお言葉ですが、これは何も心配しない、先案じをしない、曇りのない心になるように、とのお言葉だと思えます。

私は先案じの心が人一倍強い性格です。心配しなくてもよいことをあれこれ考える。また心配してもどうしようもないことをあれこれ考える。そして遂には最悪のパターンを次々と考え出してしまふのです。

アメリカのロバート・L・リーヒ博士(国際認知療法学会会長)の研究によると、心配事が起こるのは「13%の確率」でしかないそうです。



しかも実際に起きた13%の心配事のうち、80%は自力で解決できるものだ」と明らかにされています。

たった13%。これが降水確率なら、ほとんどの人は傘を持って行かないでしょう。そのたった13%を、誇大に悩んでしまう私の性を何とかしないことには、心澄み切ることになりません。三年千日の私の心定めの一つにしています。

随分前のことになりましたが、ホノルル教会の部内教会長のご主人ミスター・キムラのお話です。

「私が昔、膀胱がんの手術を受けるため、ホノルルの病院に入院する日のこと。朝早くホノルル教会に参拝に行きました。いつものように拍手を打って礼拝し、顔を上げると、神殿上段一面がこの世のものとは思えな

い美しい真っ赤な色に染まっていた。私は何か後ろのものが反射しているのかと振り向いたところ、何もありません。呆気にとられてその美しさに見とれていると、今度は「心配せんで行きなさい」という何とも美しい声が響きました。びっくりして後ろを振り返ったが、そこには誰もいません。私はあの声は、きっと教祖の声に違いないと思いました。」

このように語って下さいました。

ミスター・キムラは晴々とした心で病院に向かったそうです。そして手術も無事に終わりました。

この体験以降、何年かして再び難しい手術を受けられましたが、その時はもう何も心配はなくなったそうです。

この何も心配しない、神様にもたれ切っている姿。これこそミスター・キムラがああ不思議な体験から得られた宝物だと思います。

親神様も教祖も、私たちの目には見えません。教祖は神様について「あると言えはばある、ないと言えはばない。願う心の誠から見える利益が神の姿やで」と仰せられたと聞きます。

目に見えない、数値でも計れない神様の御守護を信じて、案じる代わ

りに感謝をさせて頂ければ良いのだと思いました。

案じ心を感謝に変える。これから先の心配事を数えるより、今日頂いた御守護を数えて通らせて頂きたいと思えます。

次に感謝についてお話しします。

この「感謝」もひながたを辿らせて頂く上で外せないものだと思います。

教祖は山本利三郎先生に「人が、悪口を言ったら、その人の後ろ姿を拜んで通るんやで。そうしたらその人が、こちらの因縁を取ってくださる恩人になるのやで」と仰せられたそうです。

人から悪口を言われることは、まさに災難のようなものです。そんな時に、その人の後ろ姿を拜むこと。つまり「有難う」とお礼を言うのです。こんなこと誰が考え付くでしょうか。素晴らしい教えたと思えます。

難有るときにこそ「有難う」と言う。すると神様がその相手を通して因縁を切って下さり、運命が変わっていくのでしよう。

ありがとうと感謝をするのは、自分にとって喜ばしいことが起こったときだけではないのです。自分

にとって辛いこと、悲しいことが起こった時も、最悪な事態と思われるような中でも、教祖は「有難うと言つてごらん」と仰せられるのです。

けれども私たちは生身の身体をお借りしている人間ですので、毎日の生活の中で、とても納得できない、理解できない、受け入れられない気持ちで心が占領してしまい、否定的な塊の自分になることがあります。こんな心の状態に歯止めをかけるために、私はいつも思い出すようにしているお話があります。

アメリカの精神科医であったエリザベス・キューブラー・ロス博士の著書「人生は廻る輪のように」に出てくるゴルダさんというユダヤ人女性のお話です。

ゴルダさんは戦争中、ナチスの強制収容所に家族とともに収容されました。そして家族全員がガス室に送られます。衛兵がその日のリストに載っている人を皆ガス室に入れてドアを閉めようとしたところ、あまりに多くの人を押し込んでいたためドアが閉まりません。そこで一番外側にいたゴルダさんが引つ張り出され、奇跡的に助かったのです。

この時の彼女の気持ちは如何ばか

りだったでしょう。

著書ではこう記されています。

(ゴルダは)仲間を思い返しては、自分にいい聞かせた。「生きて、世界中に伝えるのよ。あの人たちがやつた非道をみんなに伝えるためには、どうしても生きのびなければならぬの」。連合軍が到着する日まで、ゴルダは憎悪をかきたてながら、生き残る決意を新たにしていた。

収容所が解放され、門が開けられたとき、ゴルダは怒りと悲しみの極みで麻痺状態におちいつていた。せつかくの貴重な人生を憎しみのへどを吐きながら過ごすことが虚しく思えてきた。「ヒトラーと同じよ」とゴルダがいった。「せつかく救われたいのちを、憎しみの種をまきちらすことに使ったとしたら、私もヒトラーと変わらなくなる。憎しみの輪をひろげようとする哀れな犠牲者のひとりになるだけ。平和への道を探すためには、過去に返すしかないのよ」

それにしても、あれほどの悲惨な経験をしながら憎しみを捨て、赦しと愛を選んだゴルダのことは、なんと説明すればいいのだろうか？

ゴルダはその疑問にこういつて答

えてくれた。「たったひとりでもいから、憎しみと復讐に生きている人を愛と慈悲に生きる人に変えることができれば、わたしも生き残った甲斐があるというものよ」

私たちが普段抱える問題は、ホロコーストのような残酷なことではありません。それでも人間ですから、許せないという感情はいつでも起こり得ることだと思えます。

そんな時には、自分の心から湧きあがる否定的な感情、怒り、憎しみ、悲しみ、寂しさを素直に味わった上で、今この感情を手放すチャンスが来たと感じ、許す勇気を手に入れたいと思っています。

そしてもう一つ、私が忘れないようにしていることは、自分もまた神様から、そして周囲の人々から、許して頂いている存在であるということです。

教祖140年祭に向かって、ひながたを辿らせて頂くこと、心澄ますこと、感謝すること、許し許されていることなど、お話させて頂きました。

世話人・宮森与一郎先生は「ひな

がたをたどる」とは、(親神様の思いを)分らない人に分かるまで説いて通る、連れて通る。これがひながたであります。そのための苦勞は何でもさせて頂く。これがひながたであります」と教えて下さいました。

さらに大教会長様は「今日分かってもらえなければ、おぢばへ帰り、お勤めをさせて頂き、心を澄ませて再度足を運ばせて頂く。まず三日と仕切つて通り、そこから三日、さらに三日と、三年千日続けて行くこと」を仰せられました。今はこのような時句なのだと思います。

仕切つて通る三年千日、皆さまはどのような心定めをして通っておられますか。

日々実践し、積み上げて行く心定めもあるでしょう。また3年間続けて何かを完成させるという心定めもあるかも知れません。

いずれにしても、日々お借りしている身体は大切に使用させて頂き、心は思いっきり自由自在に楽しんで、働かせて頂きたいと思えます。

最後までお聞き下さいまして有難うございました。心から感謝いたします。

(文責・本島通信編集室)

訃報

吉松峰分教会長 吉野俊宏氏

吉野俊宏氏(吉松峰分教会初代会長)は去る4月1日午前0時37分、吉松峰



分教会にて
お出直しに
なりました。
享年87歳。
葬儀はみたま
まつしを

4月4日午後6時より、告別式を翌5日午前10時30分より、浜松市内の葬祭場にて、松下一司大松峰分教会長齋主のもと執り行われました。葬儀に大教会長が参列しました。

吉野俊宏氏略歴 昭和12年7月9日生まれ。昭和32年6月20日、おさづけの理拝戴。同年6月27日、修養科第192期修了。昭和35年11月29日、教会長資格検定合格。同年12月15日、教人登録。平成7年11月22日、大教会神職奉仕人指名。平成8年2月26日、吉松峰(旧本吉野)分教会任命・移転・改称・恒例祭日変更願により吉松峰分教会長拝命。立教170年1月から3月まで修養科第789期教養掛。大教会では昭和34年から37年まで大教会神職ふしんに伏せ込まれ、その後コロナ禍まで毎月大教会へ帰参し、常にひのきしんに伏せ込まれました。教会長在職期間27年1ヶ月間。

四月月次祭 祭典役割

献饗長 平井真治郎
伝 供 篠原丕王・吉田晴雄・向所隆文・大上道徳・原口実・奥村龍夫・高垣光治・雲庵春彦・片山直明・茶屋原良昭・横山正次・高島栄造・長尾海和・長濱充憲・岩橋守行・岩橋秀一・鎌田典夫・山下英久・宮路和徳・
 位下道治・肥後章・滑川善久・村田輝夫・西森正昭・溝口晋太郎・橋口徹
雅楽奉仕者 文岡育則・池田恒治・片山秀明・上山薫・伊東賢太郎・内橋和博・伊東慎平(順不同)

祭主 指図方	大教会長 老木邦光		厩者 岡崎八十則		寺本教生 岡崎八十則		賛者 伊東康成	
	座りづとめ		てをどり前半		てをどり後半			
地方	片山 勲 岩橋竜造 岡崎八十則	篠原丕王 吉田晴雄 原口 実	雲庵春彦 茶屋原良昭 横山富明	てをどり	てをどり	てをどり	てをどり	てをどり
てをどり	大教会長 高島清弘 岩橋慶三 会長夫人 片山やすゑ 池田さわみ	西山道教 永山晴明 奥村龍夫 岩橋元実 雲庵まち子 永山みすゞ	大上道徳 長濱充憲 山下英久 伊東晴美 梅木澄代 菅岡和美	てをどり	てをどり	てをどり	てをどり	てをどり
ちやんぼん 拍子木 太鼓 すりがね 小鼓 三味線 胡弓	平井真治郎 雲庵道延 牧野道昭 老木邦光 窪田靖明 寺本教生 長尾澄子 片山 榮 向所暉美子 齊藤かよ	高垣光治 高島栄造 向所隆文 片山直明 横山正次 長尾海和 齊藤かよ 岡崎むつゑ 片山孝子	吉田知彦 須崎晴道 長門淳一 橋口 徹 滑川善久 岩橋守行 吉田要子 原口和子 高垣洋子	てをどり	てをどり	てをどり	てをどり	てをどり

四月月次祭祭文

立教百八十六年四月十四日

この神床にお鎮まり下さいます親神天理王
 命の御前に天理教本島大教会長片山幹太慎ん
 で申し上げます

親神様には「子供の出世まぢかねる」と仰せ
 になり長の年限絶え間なき御守護と段々のお
 お仕込みにより漸く今日の成人をお見せ
 頂きました御高恩の程は誠に有難い極みで
 ございます。

私共はこの大きな親心に抱かれて日々御恩報
 じを思い念じてたすけ一条の御用に努めさせ
 て頂いておりますが、その中にもこの月は教
 祖がお生まれ遊ばされてから二百二十五回目
 の御誕生日をお迎えするゆかりの月にあたり
 ますので慶びの心も一入に只今からおつとめ
 奉仕者一同陽気に座りづとめ・てをどりを勤
 めて四月の月次祭を執り行わせて頂きます。

御前には今日の日を楽しみに帰らせて頂いた
 道の子供達が共に勇んでおうたを唱和して心
 より御礼申し上げる状をもご覧下さいまして
 親神様にもお勇み下さいますようお願い申し
 上げます

尚この月おぢばでは十八日の教祖誕生祭に続
 いて十九日には第百五回天理教婦人会総会が
 開催され式典に続いて頂戴したお言葉をそれ
 ぞれの心に涵養させて頂くため詰所講堂で
 「ふりかえり」の時間を持たせて頂きます
 また二十日には片山俊次三代会長の三十年祭

を宮森与一郎先生祭主のもと本部祖霊殿にて
 勤めさせて頂きます

更に来る二十九日に実施されます「全教一斉
 ひのきしんデー」には日頃健康に生かされて
 いることを御礼申し上げ家族揃ってひのきし
 んに励み時旬に相応しい歩みを推し進めさせ
 て頂きたいと存じます

何卒親神様には届かぬ所至らぬ点は幾重にも
 お仕込みを賜り教祖のひながたを日々の目標
 として年祭活動を一手一つに歩ませて頂く私
 共の真実の心に自由の御守護をお見せ頂き互
 いにたすけ合う陽気ぐらしの道へとお導きお
 育ての程を一同と共に慎んでお願い申し上げます
 (原文のまま)

入社祭

立教186年4月14日の入社祭はありま
 せんでした。

4月14日(金)
 【香川県丸亀市】
 天候 曇後一時雨
 最低気温 10.3℃
 最高気温 18.3℃
 平均気圧 1016.9 hPa
 平均湿度 76%
 平均風速 1.1 m/s
 日照時間 2.8 時間
 降水量 7.0 mm
 ※ 降水量は一日の総雨量です

第109回本島団鼓笛隊春季合宿

本島団鼓笛隊(鎌田典夫部長)では、3月31日から4月2日までの2泊3日間、本島詰所を会場に「第109回本島団鼓笛隊春季合宿」を実施。隊員57名、指導員32名の計89名が参加しました。

過去これまで、春季合宿は大教会で行ってきましたが、コロナ禍を経て数年ぶりの合宿となる今回は、まずおちばでの伏せ込みひのきしん、ならびに教会本部での御供演奏をさせて頂きたいとの思いから、天理で開催いたしました。3月31日午前9時に詰所集



合し開講式の後、教会本部参拜。本部廻廊拭きひのきしんを元気いっぱい勤めた後、午後から練習を開始。久しぶりの合宿練習にほどよい緊張感をもって取り組むことができました。

2日目の練習では、教会本部よりグラウンドをお借りして、行進練習を行いました。

3日目は午前9時より、黒門跡より南礼拝場まで演奏行進、引き続き南礼拝場前広場で御供演奏。短期間の合宿だったにも関わらず鼓笛隊スタンダード・ナンバーのエレメンタリーマーチ、RYGを堂々と演奏披露し、合宿の練習成果を存分に御供させて頂くことができました。

午後からの閉講式で挨拶に立った大教会長様は、「本島鼓笛隊は陽気ぐらしを目指す鼓笛隊です。親神様と私たちは親子であること、そして私たち人間は親神様を親に持つ兄弟姉妹であることです」



「陽気ぐらしの大事なキーワード『団欒』。団とはみんなが集まること。欒とは木の上に糸・言・糸と書きまます。糸とは人と人との繋がりを表し、言とは言葉を交わすことを表します。この『団欒』という言葉はまさに鼓笛隊のあるべき姿を表しているように思います。共に陽気ぐらしを目指して行きましょう」と述べられました。

その後、大教会長様夫妻と一緒に本部食カレーを食べて、ひとときの団欒を過ごし、再び夏に集うことを誓い合いました。

春の学生おちばがえり

「立教186年春の学生おちばがえり」は3月28日、「次代を担うようほくへ」をスローガンに親里で開催され、本島学生会(片山元一委員長)から24名(直属参加11名、教区参加13名)と学生担当委員9名が集いました。

式典に先立ち27日午後、直属参加11名が詰所に集合し、本部参拜、廻廊拭きひのきしん、西泉水プール前広場で催された「おたのしみ行事」に参加しました。

28日式典後の直属アワーでは教区参加の学生も合流し、



講堂で大教会長様夫妻と一緒に会食(タコス、唐揚げ料理)を楽しみ、続いて青年会、婦人会、鼓笛隊のPRタイムでは各会行事への参加を促しました。

なお本島学生会ではこのたびLINEアカウントを開設しました。学生会行事のお知らせや会員相互の情報交換などを行うため、友達登録を募集しています。



青年会雅楽講習会

青年会本島分会(伊東賢太郎委員長)では、4月8日と9日、本島詰所において「春季雅楽講習会」を実施。青年会員11名が参加しました。

経験者と初心者に分かれ、平調を主とした雅楽の習得に励みました。

〈本部祖霊殿における〉

本部員・本島大教会三代會長 片山俊次30年祭

本部員・本島大教会三代會長 片山俊次主の本部祖霊殿における30年祭が、4月20日午前10時より世話人・宮森与一郎先生祭主のもと厳かに執り行われ、家族親族、本部ならびに大教会関係者など89名が参列しました。

才でお出直しになられた三代會長様を偲びました。なお大教会における30年祭は本年10月21日に、夫人片山コズエ刀自20年祭と併せて執り行われる予定です。

婦人会総会に135名

その後、詰所食堂にて会食を行い、午後1時30分より豊田山墓地における墓前祭を岩橋慶三役員祭主のもと行われました。

当日は夏日の晴れ空が広がり、平成5年8月8日に齢88



コロナ禍を乗り越え、4年ぶりに制限なく実施されることになった「天理教婦人会第105回総会」は、4月19日午前10時50分より本部礼拝場(東・西・北)において開催され、本島支部より135名の会員が参加しました。式典後、午後1時より詰所4階講堂において、式典における真柱様・婦人会長様のお話について、9班に分かれて「ふりかえり」を行いました。

「学校を卒業して10年間にあたる女子青年は、みちの...」

「教祖ひながたの道を頼りに心を定め、3年後の教祖140年祭の時に思い描く自分自身になれることを目標に、心を磨いていきたい」

最後に挨拶に立った片山かおり支部長は「婦人会はもと



もと婦人同士が論し合い、談じ合いを通して、お互い道の台として歩むことから会活動が始まりました。教祖140年祭に向かう三年千日のスタートに当り、制限なく総会が開催されてとてもありがたいことでした。真柱様のメッセージ

は今後「みちのだい」などに掲載されると思いますので、読み返し、総会に帰参できなかった会員にもお伝えして、これから婦人会活動を明るく陽気に勤めさせて頂きます。う。」と述べられました。

すき間のおはなし

淡色のサクラが散ると入れ替わりに咲き始める躑躅。特に5月、強さを増す日射しと競うように鮮やかに咲く躑躅の彩度は、目が眩むようです。

今年の暦では5月6日が「立夏」になります。清々しい夏の



始まりに、躑躅は強い印象を残してくれそうです。

親里の神苑周辺にはたくさん

の躑躅が植えられています。その中でも、本部西参道に咲くヒラドツツジは特に見応えがあります。神殿から天理駅方面に真っ直ぐ伸びる道沿いに、3、4万本が一斉に開花。この原稿を記している4月24日現在で、八分咲きですが、真っ赤な花がまるで堤のように盛り上がっています。また西2駐車場の北側に沿って咲く躑躅は、赤、白、ピンクなどがぎゅっと混在して咲き、その絢爛たるや見事なものです。

本島大教会参道の斜面には約60年前に植えられた躑躅が大きく育っています。5月27、28日のツツジ刈りひのきしんは、来年の花を咲かせる大切な作業になります。

(むかいじよ)

立教186年
6月から
スタート

お道の仲間と共に学び合い 陽気ぐらしの実践へ

ようぼく講習会

「ようぼく講習会」は、ようぼくがそれぞれの立場で陽気ぐらし世界実現に向かってその使命を果たすことができるよう、親里ぢばにおいてをやの思召を学び、自分の役割を再確認し、今後の日常生活に活かす場です。



対象者

ようぼくで、講義・講話やグループタイム等の講習会受講が可能な方(年齢は問いません)

開催日時

毎月1回(日曜日)
(右の2つのコースを月毎に交互に実施します)
9:00開講～16:00閉講
(8:30受付／16:15解散)

開催場所

おやさとやかた東左第四棟・第五棟

定員数

50名(定員に達した場合、申込を締め切らせていただきます)

受講御供

2,000円

WEBまたは申込用紙で
お申し込みください

※申込用紙は教養室庶務掛に準備しています

テーマ

教祖

教祖のたすけ一条の親心を学び、日々ご存命でお働きくださっていることを実感する

日にち | 6月4日、8月20日、
10月8日、12月17日

テーマ

親神様の御守護と教えの実践

親神様が望まれる陽気ぐらしとは何かを学び、教祖のひながたの中に陽気ぐらし実践のヒントを得る

日にち | 7月9日、9月17日
11月19日

【お問合せ】教養室庶務掛

☎ 0743-63-2109

✉ yoboku-k@tenrikyo.or.jp

<https://www.tenrikyo.or.jp/yoboku-kosyukai/>



WEB QRコード

主催：天理教教会本部 教養室

ようぼく講習会

🔍 検索

事情はいづ

(立教186年4月26日)
 台壇教会
 恒例祭日変更願
 春秋大祭 第一日曜日
 月次祭 第一日曜日
 以上

おさづけの理拝戴

(立教186年3月分)
 本水島 山下宗則
 銀峰 藤本千理
 【計2名】

をびや許し

(立教186年3月分)
 本米臺 高橋かおり
 【計1名】

証拠守り下附

別峰1
 (立教186年3月分)
 【計1名】

少年会新隊長

(立教186年4月分)
 フィリピン隊 今若七斗
 【計1隊】

大教会長動向

▼5月(予定)▲
 3日、沖浦分教会3代会会長
 宮本明5年祭
 同分教会2代会会長夫人
 宮本喜代子40年祭
 10日、本葵分教会巡教
 13日、本府中分教会巡教
 14日、本千嘉分教会巡教
 22日、大教会月次祭執行
 24日、修養科門出まなび
 25日、かなめ会委員会
 26日、本部月次祭参拝
 27日、かなめ会
 30日、本部神殿奉仕当番
 以上

ろくごら

(立教186年4月分)
 ▼本島△片山幹
 太・片山かおり・
 香葉子・幹太郎・
 好次・昇太△片山
 秀明△長尾真実・
 幸太 ▼樺大分教
 会 ▼本樺△大上
 ほの香・はる香・
 太吉 ▼崇徳分教
 会 ▼本高分教
 会 ▼ポートランド△
 片山和信・陽子・
 昇慶・竜次
 ご芳志に厚くお礼
 申し上げます

バザー休止・バザー品の持込お断り

コロナ禍は落ち着いてきましたが、婦人会の衣料バザーはまだ再開の目処が立っていません。品物の整理も出来ていませんので、古着や食器・家庭用品などバザー品を詰所へ送ること、持ち込むことお断りします。ご協力お願いします。【婦人会本島支部】

統計 (3月1日~31日)

教会名	初席	中席	参り席	修養料	教人講習	検定講習
本陸奥	1			2		
本恵山		1				
本静濱		1				
本千代		1	1			
本水島		1				
本備前		1				
本府中				1		
本千嘉	1					
本赤峰		2				
本吉峰		1				
本倉峰	1					
本實峰		1				
大隅聖	1					
大駿峰		1				
別峰		2				
吉松		1				
肥後八	2					
本銀峰			1			
本鶴峰	1					
合計	7	12	2	4	0	0

布教部報告(4月分)

布教部では全教会提出(提出教会数の増加)を目指しています。右側の数字はその年の報告回数です。毎月新たに「1」の教会が増えていくことが目標です。なお従来の「にをいかけ人数」は省略し、全体の総数のみ記載することにいたしました。

にをいかけ名簿提出教会 (4月)				おさづけ取次報告教会 (4月)											
榊太	3	本千恵	1	豪峰	4	本島	3	本千代	4	雅峰	2				
本倉岡	4	本吹田	1	倉峰	4	榊太	3	本千恵	1	吉峰	1				
本陸奥	1	本備前	4	雄山	3	本倉岡	4	本平濱	3	豪峰	3				
本榊	4	本府中	4	栄森	3	本陸奥	1	攝津	3	倉峰	4				
本室	4	本清水	1	栄東	4	本榊	4	本吹田	1	栄森	1				
本都	4	崇徳	4	霊峰	4	本室	4	本水島	4	霊峰	4				
本京	4	与島	1	實峰	3	本東都	1	本備前	4	大駿	1				
本護	1	本勇	1	大駿	1	本京	4	本府中	4	文峰	1				
本三	1	本宣道	4	文峰	1	本護	1	本清水	1	銀峰	1				
本恵	1	本陽山	4	銀峰	1	本三	1	崇徳	4	鶴峰	1				
本恵明	1	本新田	3	鶴峰	1	本恵	1	与島	1	仙峰	4				
本静濱	1	本九台	1	都峰	2	本恵明	1	本廣	1	マリーナ	1				
本日米	1	赤峰	4	仙峰	4	本静濱	1	本勇	1	カガバワック	2				
本浜	1	雅峰	2	マリーナ	1	本日米	1	本陽山	4	ハリウッド	2				
本千代	4	吉峰	1			本浜	1	赤峰	4						
本千賀	1	本神	1												
計 46 教会				341 名				計 44 教会				721 名			



教会長登殿参列

【登殿参列係】

- 5月26日月次祭登殿参列者
橋爪嘉次・白垣初生・寺本教生・上濁口節子・吉田久江・木村太喜・西森正昭・川村吉夫・肥後良子・大西知・佐志信夫・片山好治・吉田晴雄・向所隆文・平井真治郎(順不同・計15名)
- 登殿参列の流れ
 1. 詰所で教服を着用し、午前7時30分写真の間集合。諸説明後、バスにて出発。
 2. 西境内地の登殿受付建物より入場
 3. 直属ごと神殿へ参進(西廻廊を経由し、西礼拝場より登殿)
 4. 神殿結界内にて着席
 5. 神殿講話終了後、教祖殿へ参進(徒歩は東廻廊。車椅子は西廻廊)
 6. 教祖殿御用場にて教祖ならびに祖霊様礼拝
 7. 内統領または表統領よりごあいさつ
 8. 登殿受付建物へ移動、詰所へ戻り写真の間にて解散
- ※ 教服の貸出はありませんので、各自でご用意ください
- 該当月に登殿参列が出来ない場合は、一覧を本島詰所に掲示しておりますので、各自で交代の話し合いを行い、決まった後は必ず登殿参列係へお知らせ下さい。交代相手が分からない場合は、係へご相談ください。
- 登殿参列係：平井真治郎役員

みちのだいおはなし会



【婦人会本部】

- 日時：5月26日(金)午後1時～2時
- 会場：東講堂
- 講師：葛西いくえ先生(弘森委員長)
小川由美子先生(開原委員長)
- ※ 男性も聴講可。託児はありません。

おやさとふしん青年会のきしん隊

【青年会本島分会】

- 第914回おやさとふしん青年会のきしん隊
- 隊期：6月2日(金)より23日(金)
※ 日曜日は休養日のため出勤はありません。※ 本島分会として毎週金曜日と土曜日に入隊予定ですが、平日の入隊もできます。
- 宿泊：第百母屋(日帰り入隊も可能です)
- 申込締切日：入隊日によって締切日が異なります。ひのきしん隊本部への申込みの都合上、締切日までご連絡をお願いします。
- ◇ 6月2日～3日入隊：5月25日締切
- ◇ 6月5日～10日入隊：5月28日締切
- ◇ 6月12日～17日入隊：6月4日締切
- ◇ 6月19日～23日入隊：6月11日締切
- 家族入隊日：6月10日(土)
ひのきしん隊に婦人会員と少年会員も入隊できるようになりました。家族揃っておちばでひのきしんできます。
- 担当：伊東賢太郎
(080-8738-8349)

大教会ツツジ刈りひのきしん

【青年会本島分会】

- 期間：5月27日(土)午前10時集合
5月28日(日)午後3時解散
- 場所：大教会
- 内容：ツツジ刈り

おおうら

大裏地区田植えひのきしん



【伏せ込みひのきしん係】

- 三年千日おちば伏せ込みひのきしん
- 内容：大裏地区田植えひのきしん
- 日時：6月24日(土)
午前9時～午後4時
- 送迎：8時30分詰所玄関前より出発
- 場所：大裏地区(天理市豊田町)
- 服装：Tシャツ、短パン(海水パンツ)、サンダル、帽子
※ 濡れても汚れてもよい服装
- 作業内容：苗の手植え等
- 参加対象：教会長夫婦および希望者
- 補足：ひのきしんは終日を予定していますが、午前のみ、午後のみ参加も可能です。食事(当日の昼食含む)宿泊の予約は各自で詰所へご連絡をお願いします。
- 担当者：岡崎八十則・永島宗行

第110回本島団鼓笛隊夏季合宿

【本島団鼓笛隊】

- 期間：7月26日(水)～7月30日(日)
- 場所：本島詰所

5月ひのきしん派遣依頼

【総務部】

〈大教会・食堂ひのきしん〉

- 期間：5月21日～22日
- 派遣：渋谷

〈詰所・食堂ひのきしん〉

- 期間：5月25日～26日
- 派遣教会：同朋、安藝本中

大教会5月月次祭ライブ中継

【本島通信編集室】

- 対象：5月22日大教会5月月次祭に帰参できないため、ライブ中継視聴を希望する方
- 申込方法：
メールで、live@honjima.comに「ライブ希望」と「教会名・氏名」を記入してお申し込みください。当日朝ライブ視聴できるアドレスをメールでお知らせします。
- 申込締切：5月21日午後5時まで
- ご注意：ライブ中継は毎月のお申し込みとなります。



肖像写真撮影について

【本島通信編集室】

- おつとめ奉仕者の肖像写真撮影について
- 本島通信編集室では、10年に一度、教会長夫妻の顔写真を撮影しております。今回は大教会で撮影いたします。
- 日時場所：月次祭(徹饌・閉扉)終了後、参拝場にて(2年間をめぐり毎月実施)
- 対象：おつとめ奉仕者のほか、一般参拝者も撮影します。
- 期間中、何度も撮影いたします。

<https://www.honjima.com/>



は、本島ドットコムより関連資料をダウンロードすることができます。トップページ>各種ダウンロード